

都道府県名：福島県	市町村名：大玉村
<p>1. 活動名：ふくしま森林文化企画展 フォレストパークあだたら 体験プログラム</p>	
<p>2. 取組の背景、目的</p> <p>本企画展の趣旨：ふくしまの先人たちは、森林と人との密接なかかわりの中で、森林を保全しながら、これを有効に利用する知恵や技術等を培い、地方ごとに特色のある生活スタイルを育て、現在まで「森林文化」として引き継いできた。近年の生活様式の変化に伴い森林と人との関係が希薄になりつつある今、県内5つの文化施設等が連携し、改めて森林の価値を見直し、これからの森林と人との新たな共生についてふくしま森林文化企画展を開催した。</p> <p>(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団では、上記企画展の趣旨に賛同し、森林環境教育の普及、啓発を推進させるため、フォレストパークあだたらを舞台に各種事業を展開した。</p>	
<p>3. 実施主体：(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団</p>	
<p>4. 取組の概要</p> <p>主催：ふくしま森林文化企画展実行委員会 開催施設：福島県立博物館(会津若松市)、福島県文化財センター白河館・まほろん(白河市)、福島県歴史資料館(福島市)、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら(安達郡大玉村)、アクアマリンふくしま(いわき市) 開催期間：平成22年6月26日～8月22日 テーマ：森林を守り育て、未来につなぎましょう</p>	
<p>5. 支援事業 (国、都道府県、各種団体等から支援、補助を受けている事業名、及び補助率を記入して下さい。) ふくしま森林文化企画展実行委員会からの受託事業</p>	
<p>6. 取組等についての成果や課題</p> <p>以下参照のこと</p>	



◆ふくしま森林文化企画展 エコキャンプ

◆2010年6月12日(土) 11時30分～21時・13日(日) 7時～12時

◆参加者数 40名

◆講師 ◆講師 福島県キャンプ協会 松前知恵子さん、松前雅明さん

当日はバッチリ晴天、まさにキャンプ日和、しかもうれしいことに10組40名満員でした。初めてキャンプに参加する方もいましたよ。さて、1日目はというと、テント設営から始まりいろいろ行いましたが、やはり竹をナイフやナタで削って作るマイハシとコップは、みなさんすごい集中していました。お父さんに手伝ってもらいながらお子さんも上手に作っていました。さらに夜には、ろうそくとアルミホイルで作った明りで夜の森を探検！池ではおたまじゃくしを発見し盛り上がりしました。

2日目も朝から手打ちうどんをつくり、自然探検に、牛乳パックを使っておやつのケーキづくり、最後はもちろんテントの撤収……。本当に目いっぱい参加者の方には楽しんでいただきました。



◆ふくしま森林文化企画展 初夏の森 ツリーウォッチング

◆2010年6月29日(火) ◆参加者数 11名

◆講師 東北大学大学院 環境科学研究科 富田 昇さん

参加者は11名、講師は東北大学の富田さん、遠藤ヶ滝遊歩道をぐるっと一周するコースを歩きました。今回はツリーウォッチングということで、様々な特徴の森や林を、山と人との関わりなど、その森の「少し昔の姿」を想像しながら、いつもと違った視点で歩きました。このあたりの森は、昔炭にするため切られていたことがその様子から分かりました。また、その証拠として使っていた炭焼き窯の後(石積み)を見つけることができました。こんな森の見方もいろいろな発見があって面白いですね。



◆ふくしま森林文化企画展 炭焼きの全て

◆2010年7月2日(金) 10時～16時・3日(土) 9時～12時 ◆参加者数 17名

◆講師 橋本文幸さん、武田清助さん

今回はナラを炭にしました(ミズナラなど)。

1日目朝、前日から試し焼きしていた窯からは、煙が少ししか出ていませんでした。2日目朝、1日目から焼いていた窯からは、白い煙がモクモクと上がっていました。先生は本焼きの炭がうまく焼けているかどうか、朝5時に見に来てくださったそうです。お陰様で2日目に焼き上がった炭に参加者の皆さんは違いを実感されていました。焼き上がるまでの時間も、炭焼きの未来に関する話し合いになりました。炭を残していくためには燃料として使っていくこと、販路を作ることが必要なのではないかということ。昔からの知恵を未来につなげて行く方法を、これからも考えていきたいですね。



◆ふくしま森林文化企画展 キノコを作ろう 一般編

◆2010年7月7日(水) 10時~13時 ◆参加者数 10名

◆講師 (財)福島県きのこ振興センター 熊田淳さん他
森林を支える重要な要素の中に、菌類があります。落ち葉や枯れ枝、枯死した樹木を分解し、資源の循環をさせている影の立役者です。この日は財団法人福島県きのこ振興センターから講師の方をお呼びして、きのこの植栽体験を行いました。ムラサキシメジの菌床を林の中に設置、枯れ葉をかぶせて完成です。10名の方々が参加していただき、作業はあっという間に進んでいきます。先生には、実際に腐食が始まっている倒木を利用して「地面から森を見る」というお話をいただきました。

お勉強が終わると、お昼ご飯が待っています。先生持参のきのこ達を炭で焼いたり、きのこ汁にしたり…。薫り高く、贅沢な昼食でした。ちなみに、このとき使用した炭は先日フォレストパークで焼いた白炭なんですよ。



◆ふくしま森林文化企画展 森の恵み キノコを作ろう 親子編

◆2010年7月11日(日) 10時~13時

◆参加者数 19名

◆講師 (財)福島県きのこ振興センター 青野茂さん他
今回は大人だけの参加でしたが、今回は家族での参加でお子さんもたくさんいました。合計19名の参加がありました。この日は、学習館でパソコンを使ってのキノコのお話がありました。森での役割や分類など、お子さんにはちょっと難しい内容だったかな?植菌地では子どもたちが大活躍!なれないスコップや一輪車を使って一生懸命落ち葉を集め、ムラサキシメジの菌の上にかぶせていきます。目印の棒をさしてマウンドの完成です。ムラサキシメジが出るのは10月中旬くらいとのこと、今から楽しみですわね!

この日もヒラタケとなめこを使ったキノコ料理が振舞われました。おうちでもあまり食べないというキノコを何度もおかわりをして食べていたお子さんがいて、お母さんがびっくりしていました。



◆ふくしま森林文化企画展 地域のための森林整備講座
◆2010年7月14日(水) 9時~15時 参加者数 9名

◆講師 福島県県北農林事務所 森林林業部 三浦貞親さんほか

講師には県北農林事務所の方3名をお迎えし、本格的な森林整備の講座を行いました。参加者は11名、当日はテレビの取材も入る関心度の高さでした。

今回の講座は森林整備の初心者の方に向けて、作業道具の使い方、安全衛生、ボランティアなどの室内講義に加え、実際に林内に入りチェーンソーや下刈機の実習も行いました。森林整備は、木を植えることや、間伐にだけ目が向きがちですが、一方でその森を「将来どのような森にしていきたいのか」を考えて手入れする必要があります。木を売するための森なのか、里山として利用するのか、自然林にもどすのかなど目的によって森林づくりの方法を変える必要があります。今回の講座ではこの部分にも力をいれ、講師の方から森林づくりの考え方を教わったあと、森に入り自分ならどんな森にするのかを具体的に考えてもらいました。どんな森にするのか、そのためにはどんな方法で整備すればいいか、この両方がこれからの森林整備には必要不可欠であると感じた講座でした。



◆ふくしま森林文化企画展 夜の森 昆虫ウォッチング

◆2010年7月24日(土) 参加者数 35名 ・25日(土) 参加者数 31名

◆講師 福島虫の会 小林潤一郎さん・斎藤忠雄さん

講師は、福島虫の会の小林さんと斎藤さんの2名で、地上の虫を落とし穴に落としとして捕まえる「ベイトトラップ」と、光に集まる虫を捕まえる「ライトトラップ」の2つを実施しました。

当日の参加者は、初日が35名、2日目が31名でした。ベイトトラップは紙コップにエサをいれ地面に埋めておくだけの単純なものですが、どこに設置すると虫がたくさん取れるか、参加者はいろいろ考えながら設置していました。

ライトトラップでは、設置場所や使うライトの種類によって異なる虫が集まりました。クロカミキリ、ツノトンボ、クワガタ、ガ、などなど。子どもたちは、飛び交うガも気にせず、一生懸命写真をとっていましたよ!

2日目の朝にベイトトラップを回収してみると、手塚治虫の名前の由来になったオサムシやアリなどのムシを取ることができました。とったムシは名前を調べてから、ちゃんと逃がしましたよ。先生からは、虫について、どんなところに集まるのか、昆虫標本の作り方、どんなムシがいるのかなど、いろいろ教えていただくことができました。



◆ふくしま森林文化企画展 森の活用 ツルを使って道具作り (カゴ編み)

◆2010年8月25日(水) ◆参加者数 21名

◆講師 橋本文幸さん(大玉村民)

当日は21名の参加があり超満員となりました!材料はミツバアケビの若いツルでした。初めは不安そうに「先生、先生」と頼っていた参加者の皆さんでしたが、一旦波に乗ると「邪魔をしないで!」と言わんばかりの雰囲気をかもし出しておりました。すごい集中力でした!

思いのままに形作って行く器用な方、なぜか芸術品ができてしまった方、様々でした。けれども作品発表の際の皆さんの笑顔は、充実したイベントだったことを物語っていました。



◆ふくしま森林文化企画展 森の活用 山の木を使って、親子で遊べる遊具作り (コマ作り)

◆2010年8月28日(土) ◆参加者数 14名

◆講師 鈴木寅一さん

今回担当の鈴木先生は木のオモチャ作りの名人です!コマだけでなく、羽だけが飛ぶ竹とんぼなどをご持参くださいました。本当に器用!!

参加者は全員で14名。小さいお子さんもいた中で、お父さん、お母さんのご協力もいただきながら堅いサクラの木を削ったり、縄をなったり、かなり難しい工程をクリアしました。パチンコも作りましたよ。

最後はできたオモチャで遊ぶ時間です。竹の棒にヒモを付けたものでコマを回します。回転が足りなくなったらヒモでパシパシ叩きます。コマで遊んだ世代なのでしょうか、なかなか上手なお父さんもいました。それからパチンコ。玉は今フォレストパークでも見られるエゴノキの実です。自然を利用するといろいろなオモチャができるのですねー!